

緊急事態宣言発出に伴う教育活動について、保護者の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症の収束・終息が見通せない中、三度目の緊急事態宣言が大阪府に発出されました。昨年の今頃は緊急事態宣言発出に伴う学校の臨時休業の期間でした。

学校では、年度当初の学級づくりの時期であり、また、小学校1年生には学校生活の基礎を学ぶ時期に学校が閉鎖されるという事態でした。今、思い返しても、その当時の保護者の皆さまのご家庭での見守りとあわせ、休校中の学校へのご協力を心から感謝申し上げます。

今回は、緊急事態宣言発出に伴い学校の臨時休業の措置は取りません。しかし、保護者の皆さまには、コロナ禍の子どもたちの学校生活に不安を持たれていることでしょう。

昨年は、6月から学校が再開されましたが、子どもたちは、暑い夏場でもマスクをし、感染リスクが高いと考えられる活動は実施できず、さらに、子どもたちが楽しみにする給食時間は前を向いて黙って食事する、などさまざまな場面で制限がありました。

そのような状況でも、規模は縮小されましたが運動会や体育大会は実施され、宿泊学習につきましては日帰りとなりましたが、修学旅行は全校で実施できました。残念なことに中止となった学校行事もありますが、それぞれの教育活動の意味や子どもたちの心情を考えながら、教職員は感染防止対策等を講じつつ、実施するための努力と工夫をしました。

今回の緊急事態宣言発出にいたった状況は、変異株の急激な広がりや感染者数の急増など、1年前とは大きく異なり、同様に本市の学校の状況も昨年とは異なっています。

一方、学校には、昨年さまざま工夫した経験があります。どの学校の教職員も、子どもたちのことを第一に考え努力した積み重ねがあります。

本市のホームページには、昨年度と、今年度4月現在の交野市教育委員会としての新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策等を掲載しました。これだけでは、保護者の皆さまの不安は解消しないかもしれません。しかし、今申し上げた、教職員の経験と工夫そして子どもたちの心情を思いやる心で、学校も一丸となってコロナ禍でも教育活動が充実できるよう引き続き努力をしてまいります。

新型コロナウイルス感染症は未知のことが多く不安はつづきます。ただ、不安や恐怖心ばかりがあおられると客観的なものの見方ができなくなります。冷静に判断できないと、それが偏見や差別につながってしまいます。不安や恐怖心ばかりが前面に出て子どもたちの活動が過度に制限されることがないようにしたいと考えています。子どもたちが、大人の行動からしっかり学べれば、このコロナ禍の向こう、子どもたちの明るい未来につながります。

交野市の次の50年を支える子どもたちです。学校だけではなく、保護者の皆さま、そして地域社会全体で健やかな育みができますよう、これからも皆さまのご理解とご支援を、心からお願い申し上げます。

令和3年4月25日

交野市教育委員会教育長 北田千秋